

令和 3 年度小本川水系流域治水協議会幹事会の開催結果

1 幹事会の開催概要

- 日 時 令和 3 年 11 月 30 日（火）14 時～15 時 30 分
- 場 所 岩泉地区合同庁舎 3 階 第 1 会議室
- 出席者 別紙名簿のとおり

2 幹事会で出された意見等

【町 佐々木危機管理監】

- ・今回から民間の方々に新たに参画いただき、先進的でよい取組である。
- ・法改正により、避難勧告が廃止し避難指示に一本化された。これに伴い、要配慮者利用施設の避難確保計画の見直し、自主防災協議会の地区防災計画の改正作業中。
- ・町内小中高校による防災学習教育の取組、及び防災士連絡協議会の防災士が講師として参加。
- ・復興 5 年伝承事業を 8 月に開催。NHK と連携した水害意識啓発ポスターの作成。節目節目に災害の記憶を伝承していく事業や行事の実施、流域治水の取組として実施していきたい。そのための予算の確保についても検討が必要。

【小本地区自主防災協議会 長崎会長】

- ・台風第 10 号の際、小本地区自体はそこまでの雨量ではなかったが、小本川上流の集中的な大雨により洪水が拡大。避難場所の小本防災センター周辺も浸水した。小本地区は小本川の一番河口側にあり水が集中する。早めの避難が大事と思い、防災・避難について取り組んでいきたい。

【防災士連絡協議会 小松会長】

- ・2018 年の最初の養成講座からちょうど 3 年間で 206 名の防災士の資格を得た。地域によって意識・活動の差があり、各地区それぞれの自主防災の考え方がある。小本地区は津波、上流側は洪水や土砂災害が心配。せっかく防災士の資格を取ったのだからという思いで、研修を積んだり地域を見たり情報共有しながら役に立っていきたい。

○その他、議論した内容

- ・森林整備・森林保全のための間伐や造林などによる治水効果の考え方について
- ・砂防ダム・治山ダムの整備効果の考え方について

3 幹事会での意見を踏まえた、今後の取組方針（案）

災害の記憶伝承と防災意識の共有・向上のため地元連携の更なる推進

- ・新たに参画する森林関係部局や地域防災に取り組む民間団体とも連携しながら、ソフト対策にかかる、地元連携と防災意識の共有の取組について、更なる推進を図るため、災害の記憶伝承と防災意識の共有と向上のため継続して取り組むこと。